

ストップ温暖化センターみやぎ『通信』Vol.41

ストップ温暖化センターみやぎ設立 10 周年

ストップ温暖化センター設立 10 周年を迎えて

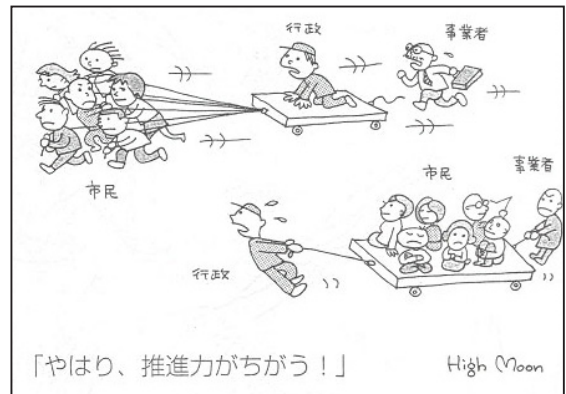
初代センター長 北條祥子（尚絅学院大学教授）



1999 年に「地球温暖化対策の推進に関する法律」ができました。その中では全国 47 都道府県に地球温暖化防止地域センターを設置することが決められました。

この方針を受けて宮城県は 2000 年 5 月 22 日に（財）みやぎ・環境とくらしネットワークを宮城県地球温暖化防止活動推進センターに指定しました。このセンターは北海道、広島、兵庫について全国で 4 番目に設置されたもので、全国で初めての市民運営によるセンターでした。右の図（前京都大学教授・高月紘著）をシンボルマークに使い、全国に先駆けた先進的なことをやろうと張り切り過ぎたきらいがあります。仕事終了後に皆で集まり夜遅くまで、「エコカレンダー」や「市民がつくるみやぎ環境白書」づくり、シンポジウム開催などに取り組みました。

10 年を経て、事務体制がしっかりと確立し、行政との連携もきちんとできるようになったセンターの発展を大変うれしく思います。地球温暖化防止は世界的な最重要課題の一つですが、市民一人一人の協力ができない課題です。市民運営のセンターであることを忘れず、市民の目線で活動するセンターとして、ますます発展させていただければと願っています。



ストップ温暖化センター設立 10 周年を迎えて

センター長 長谷川公一（東北大学大学院文学研究科教授）



2000 年 5 月 22 日、ストップ温暖化センターみやぎは産声をあげました。本年は足かけ 10 周年の年です。温暖化対策推進法にもと

づいて、各県知事が温暖化防止活動推進センターを指定することができることになりましたが、ストップ温暖化センターみやぎは全国で 4 番目、県などから独立した NGO としては全国初の指定を受けました。現在は、2 県をのぞく 45 都道府県に都道府県センターがあり、その約半数は NPO ですが、ストップ温暖化センターみやぎは、その先駆けだったので。しかし予算不足・人員不足の中、初代センター長の北條祥子先生、誕生初期から担ってこられた門田陽子副センター長らのご苦勞はいかばかりだったでしょう。

この間の歩みで特筆すべきことは、2006 年 7 月から 2 年間、各センターでつくる都道府県連絡会の

代表幹事を務めたことです。ストップ温暖化「一村一品・知恵の環づくり」事業の実現や各都道府県大会・全国大会の企画・実施、この 3 年間の環境大臣との折衝などにおいて、私たちのセンターは大変大きな役割をはたすことができました。各県のセンターから、運営のモデルのように見られる機会も増えています。これもひとえに、MELON という安定した親団体の存在、MELON の会員の皆様の支えがあったことです。

「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ！」。エコ de スマイルコンテストで昨年県知事賞を獲得した、仙台市立北六番丁小学校の子どもたちの言葉です。この言葉のように、温暖化防止活動を自分自身の課題として引き受けて、MELON の会員の皆様や温暖化防止活動推進員の方々とともに、いよいよがんばってまいりたいと思います。